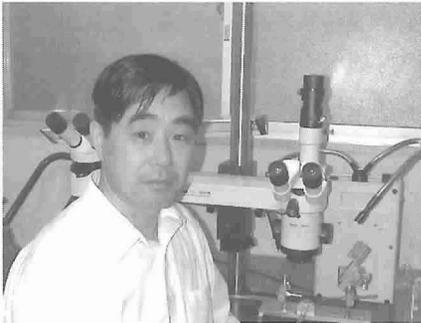


## ニ ュ ー ス

### アルゼンチンからの研修生

国際協力事業団 JICA 海外移住センターの依頼により、アルゼンチンから日系研修員加藤新英氏がミツバチの人工授精技術の取得のため、当研究施設で、5月25日から7月7日まで研修を行った。加藤氏はアルゼンチンで2500群を所有する養蜂家でもあり、研修成果が今後の養蜂経営とアルゼンチンの養蜂の発展に反映されることが期待される。



人工授精器の前の加藤氏

### 協力隊派遣

国際協力事業団青年海外協力隊の養蜂隊員として原野健一氏（玉川大学卒，留守宅八王子市）が4月6日にフィリピンに赴任した。フィリピンでは、ラ・ユニオン州にあるドン・マリアノ・マルコス・メモリアル大学養蜂研修普及センターに配属され、現地で2年間養蜂指導に従事する。

### ブラジルから研究者の来訪

プロポリス研究者協会のセミナー講師として来日中のブラジル、サンパウロ州立カンピーナス大学の Y. K. Park 博士に当研究施設にもお立ち寄りいただき、プロポリス研究について意見交換を行った。

### 第21回国際昆虫学会 I C E の開催

標記の会議が2000年8月20～26日にブラジルのイグアスで開催される。参加登録はすでに始まっていて、今年12月が2段階目の登録期限となっている。詳細はインターネットの上の公式サイト <http://www.embrapa.br/ice/> で。

### 第2回アフリカ蜂化ミツバチとミツバチ寄生性ダニの国際会議

標記の会議が2000年4月10—12日米国アリゾナ州ツーソンにあるアメリカ農務省カール・ハイデンミツバチ研究所で開催される。1987年の第1回会議からの間に、ミツバチヘギイタダニの発見、アフリカ蜂化ミツバチの侵入拡大などがあり第2回の開催の運びとなった。詳細はインターネット上の公式サイト <http://gears.tucson.ars.ag.gov> で。

#### 編集後記

猛暑で屋外のミツバチは放っておかれる一方だが、早くもスズメバチの襲来があり、蜜切れにも注意が必要な季節となった。暑中お見舞い申し上げます。さて、今号は意図して集めたわけではないが、海外で何らかの形で養蜂にかかわっている日本人の記事を特集した形になった。ニュースも同様だが、広い意味での養蜂に世界レベルでかかわっている人は意外に多い。一方、養蜂技術をもっていて何らかの形で海外での活動を夢見人も多く、当施設にも NGO の方々などから時々問い合わせがある。プライベートで、ボランティアで、ビジネスでと、実際には十人十色の関わり方があることがわかりただけなのではないだろうか。9月にはアビモンディア、来年3月には本文で紹介したタイでの学会があるが、まずは会議への参加と人々との交流から始めていただくのも悪くない。タイの方は、すぐ近くの国でもあり、これからの申し込みで間に合うので、ぜひ多くの方々の参加を期待したい。次号は過去20巻の総索引を最大の目玉とすべく奮戦中。(純)